

2011年1月3日(月曜日)



昨年は幸せを運ぶ鳥「コウノトリ」が県内に飛来するなど、環境保全に関する意識が一段と高まっています。平成23年の新春を迎え、西川知事と、越前市で環境に配慮した農法に励んでいる恒本明勇さん、若狭町で環境保全活動を行っている大下恭弘さんが、豊かな自然環境が残る「里地里山の保全と活用」について話し合いました。

生き物がにぎわう環境づくり

—昨年は、生物の多様性について考える国連の会議COP10が開かれるなど、里地里山の保全などに関心が高まりましたね。県ではどのような活動を進めていますか。

知事 身近な生き物が、福井県のあちこちに住めるような環境づくりを進めています。

例えば、越前市白山・坂口地区や三方五湖などが代表的な場所ですが、冬も田んぼに水を張る「ふゆみずたんぼ」、川や湖から魚などが田んぼに出入りできる「水田魚道」などを整備して、生き物が生息しやすい環境づくりを進めています。その結果、昆虫や魚、水鳥などが住めるような福井になってきていると思います。

コウノトリが
定着できる環境づくりを



つねもと あきお
恒本 明勇さん

越前市在住。コウノトリ呼び戻す農法部会代表。
越前市白山・坂口地区で農業などを使わないお米を生産。

—恒本さんは、越前市で環境に配慮した農法を営んでいるそうですね。

恒本 田んぼの生態系のトップと言われるコウノトリを呼び戻そうと、農薬や化学肥料を使わず、また、生き物に配慮した水管理を行うなど、安全安心なおいしいお米づくりを始めたところです。

具体的には、田んぼを乾かす時期を遅らせる、田んぼから水がなくなる時期には生き物が避難できるような溝を掘る。そして、冬には田んぼに水を張る「ふゆみずたんぼ」。こうした活動により、たくさんの生き物が田んぼに住むようになってきました。

また昨年、名古屋で開催されたCOP10では、私たちのお米が昼食のおにぎりに使われ、世界の人にアピールでき、大変喜んでいました。

—大下さんは、ラムサール条約湿地に登録されている三方五湖の周辺で環境保全活動を行われているそうですね。

大下 私たちは、三方五湖の環境を再生したいという思いで活動しています。

一見、自然が豊かそうに思われる三方五湖周辺なのですが、実は相当、環境も失われています。かつて見られたコイ科のハスなどの生き物が見受けられなくなりました。

そこで2005年に三方五湖の自然再生を目指し、ハスプロジェクト推進協議会を立ち上げました。はす川で魚類調査を行ったり、地域の食文化を伝えようと、三方五湖や川の恵みであるエビやシラウオなどを実際に獲って食べたりしています。ほかに、環境教育活動としてヨシ原を田んぼに戻した「かや田」で、赤米作りを行っています。

福井県とコウノトリ

—福井県とコウノトリは深いゆかりがあるそうですね。



にしがわ いっせい
福井県知事 西川 一誠

希望を持ち、
福井の自然を残していこう

知事 1960年代ごろには、当時の武生、あるいは小浜などにコウノトリが生息しており、県の鳥に指定しました。その後、県内から姿を消したため、新たにツグミを県の鳥に指定し直したのです。1970年、再びコウノトリが飛来したのですが、下のくちばしが折れており、みんなで優しく保護したことがあります。それから、40年後の昨年、越前市をはじめ、各地に飛来し、コウノトリを呼び戻す大きな動きが出ているわけです。

—コウノトリが定着する環境づくりを進めているそうですね。

知事 コウノトリは自然保護のいわばシンボリックな鳥です。

昨年夏に、コウノトリを人工飼育している兵庫県と相談し、越前市で放鳥し、育てていくことになりました。農家や団体と共に、たくさんの生き物が住める田んぼの環境づくりを行っており、また、越前市や地元と餌場づくりを進めています。

環境を想い行動する人づくり

—子どもたちにも環境への意識を深めていってほしいですね。

知事 小さいころから環境や生き物の学習をすることによって、環境保護の考えが広がると思います。

本県独自の副読本を作成し、県内全ての小中学校に配布しています。例えば、生き物の採取方法やエコライフの始め方などが紹介されています。

こうした学習によって、お父さん、お母さんに言われなくても節水をしたり、電気をこまめに消したり、いろんな新しい動きが出ていると聞いており、大変ありがたいと思います。



豊かな里地里山づくりを
地域の方々と

おおした やすひろ
大下 恭弘さん

若狭町在住。ハスプロジェクト推進協議会会長。

—大下さんは、子どもたちと活動をされていますが、子どもたちの反応はいかがですか？

大下 私たちの田んぼで稲作をしたり、それから生き物教室に喜んで参加してくれています。そして、ただ楽しむだけではなく、自らが行動しようと積極的になってきており、大変うれしく思っています。

ある小学校では、農家から田んぼを借りて、フナを育てています。水槽と比べて、はるかに水田の方が育ち方がいいといったことを実体験を通じて学んでいます。

また、三方五湖の昔の風景を学ぼうと、自分たちの親御さん、あるいはおじいさん、おばあさんにお話を聞き、昔の水辺の様子を絵にかいてくれました。こうしたことで、地元への愛着も深まっているのではないかと喜んでます。

—恒本さんの活動も地域ぐるみで行われていますよね。

恒本 昨年、驚いたことに私たちの地域にコウノトリが2羽、飛来し、地区のみんなで喜びを分かち合いました。その影響もあったのか、15名のメンバーで新たに5.6ヘクタールの田んぼで無農薬、無化学肥料の米づくりを行うことができました。もっと広げていかなければとの思いもあり、「ふゆみずたんぼ」を皆さんに紹介してきました。おかげさまで、活動に協力いただける方が次第に増えてきています。

農家に活動の輪が広がるだけでなく、子どもたちも私たちの田んぼに来て、生き物などの学習をしていただけると、大変うれしく思います。

—各地で環境保全活動が進められていますが、県では環境保全を行う団体を応援しようと新たな仕組みを作られたそうですね。

知事 やはり長い間活動を続けられていると、経費の面でかなり負担になっているようです。そこで、環境に関心のある企業や個人の皆さんにご寄付をいただく仕組みをつくって、市や町とも協力して、できるだけバックアップしていけるように、運動を広めたいと思います。

今年の抱負

—環境保全を行う団体を、県民の皆さんが手を結んで盛り上げていくことが必要なんですね。最後に、今後の抱負をお願いします。

大下 身近な湖からの幸を頂いたり自然環境を残すことによって、地域の方々が一体になることを期待しています。

また、他の団体の方々と手を組みながら、かつては身近にいたハスやコウノトリが生息できるような、豊かな里地里山づくりを進めていきたいと思っています。

恒本 私たちの活動をより多くの地域の皆さんに理解いただき、コウノトリが定着できる環境と一緒に作っていければと思います。また、安全安心なお米づくりにも努めることで、私たちの農業経営の安定と、活性化につながっていくことを期待しています。

知事 それぞれの地域でいただいたご意見なども活かし、10年後を見通した福井県民の将来ビジョンを新たに作りました。行政はもちろん、県民の皆さん、企業、団体が力を合わせて福井県の文化、歴史、自然を残していかなければなりません。

皆さんが希望を持ちながら、手を携え、手を結んで、農業や水産業とも深く関わる福井の優れた自然を残していきたいと思えます。